

出版條例ニ因リ人民ヨリ版權願ヲ出シタル後チ政府ハ假令版權免許ヲ與ユルト雖モ其責ニ任セサルカ如シ故ニ既ニ版權免許ヲ得ルト雖モ出版ノ上犯則ニ渉ル者ハ仍ホ出版條例ノ條項ニ依リ罪ヲ科スルモノトス

參照

明治八年第三百三十五號布告出版條例

第十四章

新聞

新聞紙ヲ發行セントスル者ハ其發行所ノ管轄廳(東京府ハ警視廳以下做之)ヲ經由シテ內務卿ニ願出テ准許ヲ受

クルモノトス其願書ニハ左ノ事項ヲ掲ク但時々ニ刷行スル雜誌雜報ノ類モ皆此條例ニ依ルモノトス

第一 題號

第二 記載ノ種目 政治法律農工商業ノ類

第三 刷行ノ定期又ハ無定期 毎日 每週 每月 又ハ無定期ニシテ逐號發行

スル者

第四 發行所及印刷所

第五 持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ屬籍身分

氏各年齡住所

右ノ事項中第一第二及第五ニアル持主社主ヲ變更セン

トスルトキハ更ニ管轄廳ヲ經由シテ内務卿ニ願出テ准
 許ヲ受クヘキモノナリ然レトモ其他ノ事項ニ變更アル
 トキハ七日以内ニ管轄廳ニ届出ルノミニ止ルモノトス
 右ノ願書ヲ差出ストキ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムルモ
 ノナリ然レトモ専ラ學術技術統計及官令又ハ物價報告
 ニ係ル者ハ其保證金ヲ要セサルモノトス

- 一 東京ハ千圓
- 一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ハ七百圓
- 一 其他ノ地方ハ三百五十圓
- 一 一月三回以下發行スル者ハ各前項ノ半額

政府ハ此保證金ヲ領受シタル後新聞社ニ於テ法律ヲ犯
 シ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用及罰金ヲ納完
 セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充
 テ更ニ持主若クハ社主ヲシテ其通知ヲ得タル日ヨリ七
 日以内ニ其欠額ヲ納完セシム若シ納完セサルトキハ其
 新聞紙發行准許ノ効ヲ失フ者トス然ルニ新聞紙ノ發行
 ナ廢止シ又ハ禁止セラレタルトキハ政府ハ其保證金ヲ
 其社ニ還付スルモノナリ
 新聞紙ハ每號ニ持主若クハ社主及編輯人印刷人ノ氏名
 並ニ發行所ヲ記載スヘキモノナリ而シテ社長幹事其他

何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙ニ署名スル者ハ
 總テ持主社主ノ例ニ依ルモノトス
 持主社主編輯人印刷人ハ内國人ニシテ滿二十歲以上ノ
 男子ニ限ルモノトシ又公權ヲ剝奪セラレタル者及公權
 ヲ停止セラレ若クハ演說ヲ禁止セラレタル者其停止禁
 止間ハ各持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得サルモ
 ノナリ而シテ若シ新聞紙條例ヲ犯シ其發行ヲ停止セラ
 レタルトキハ其持主社主編輯人印刷人ハ停止間他ノ新
 聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得ス又其發
 行ヲ禁止セラレタルトキニハ其禁止ノ日ヨリ二年間新

聞紙ノ持主社主編輯人印刷人トナルコトヲ得サルモノ
 ナリ
 新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ持主社主編輯
 人印刷人及筆者譯者ハ共犯ヲ以テ論シ各新聞紙條例ニ
 掲ケタル處罰ヲ受クルモノトス
 新聞紙發行ノ准許ヲ得タル日ヨリ五十日ヲ過キテ發行
 セス又刷行ノ定期ニ發行セス休業屆ヲ出シタル日ヨリ
 五十日ヲ過キテ再ヒ發行セス若クハ無定期ノ新聞紙前
 號刷行ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサル者ハ其准許
 ノ効ヲ失フモノトス

新聞紙ハ其刷行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄及本管始審
 裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘキモノトス若シ其新聞
 紙ニ記載シタル事項ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞
 亂スル者ト認ムルトキハ内務卿ハ其發行ヲ禁止若クハ
 停止スルコトアリ此場合ニ於テハ内務卿ハ其新聞紙ヲ
 差押ヘ又ハ發賣ヲ禁シ其情重キ者ハ印刷器ヲ差押フル
 コトヲ得ルモノトス然ルニ各地方ニ於テ發行スル新聞
 紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認ムル
 トキハ府知事縣令ハ其發行ヲ停止シ内務卿ニ具狀シテ
 其指揮ヲ乞フモノトス此場合ニ於テハ其新聞紙ヲ差押

ヘ及發賣ヲ禁スルコトヲ得ルモ内務卿ノ指揮ニ非サル
 ハ印刷器ヲ差押フルコトヲ得サルモノトス

新聞紙ニ記載シタル事項ニ關スル犯罪ハ其情狀ニ因リ
 裁判官ニ於テ犯罪ニ係ル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得又
 其告訴告發ヲ爲スニ際シ豫審判事檢察官警察官ハ裁判
 確定ニ至ル迄犯罪ニ係ル新聞紙ヲ差押フルコトヲ得ル
 モノトス

新聞紙ヲ發行スルモノ其新聞紙ニ記載シタル事項ニ付
 テハ左ノ義務ヲ負擔スルモノトス

第一 原稿ヲ刷行ノ日ヨリ三週間保存シ官署ノ訊問

ニ備フルヲ

第二 官署ヨリ其出所ノ訊問ヲ受ケタルトキハ之ヲ證明スルヲ

第三 裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ニ於テ直ニ宣告ノ全文ヲ掲載スルヲ

第四 其錯誤ニ付關係アル者ヨリ正誤ヲ求メタルトキハ其求ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ別ニ一欄ヲ設ケ正誤ノ文ヲ掲ケ又ハ正誤スルヲ

第五 他ノ新聞ヨリ抄録セシトキ其新聞紙ニ正誤ヲ載セタルトキハ關係アル者ノ求ヲシト雖モ其新聞

紙ヲ得タルヨリ次回又ハ第三回ノ刷行ニ於テ正誤スルヲ

右ニ列記スル五項ノ義務ヲ怠リタルトキハ編輯人拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處セララル、モノトス又新聞紙ニ記載スルコトヲ得サル事項左ノ如シ

第一 式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書及其草按又ハ其大意ヲ録シタル者

第二 詳細ニ拘ラス官省院ノ議事及府縣會ノ傍聽ヲ禁シタル議事

第三 重罪輕罪ノ豫審及裁判官審判ノ議事又ハ傍聽

ヲ禁シタル訴訟ノ辨論

右ニ列記スル三項ヲ犯シタル者ハ二月以上二年以下ノ
輕禁錮ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加スル
モノトス

陸軍卿海軍卿ハ軍隊軍艦ノ進退及一般ノ軍事又外務卿
ハ外交上ノ事件ニ付特ニ命令ヲ下シテ其記載ヲ禁スル
コトヲ得若シ其禁ヲ犯ス者ハ三月以上三年以下ノ輕禁
錮ニ處シ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加シ其情重
キ者ハ印刷器ヲ沒收スルモノトス
右ニ記載シタルモノ、外尚ホ新聞紙ノ犯罪ヲ處罰スル

モノアリ其方法或ハ刑法ノ例ニ依リ或ハ新聞紙條例ノ
各條ニ依ルモノニシテ其詳細ヲ舉クレハ事頗ル錯雜ニ
互ルカ故ニ今只其重大ナルモノヲ左ニ掲ケントス

第一 皇室ニ對スル罪ヲ犯ス者ハ刑法ノ處罰ヲ受ル
ノ外尚ホ印刷器ヲ沒收ス

第二 政体ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ
記シタル者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ百
圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加シ尚ホ其印刷器ヲ
沒收ス

第三 成法ヲ誹毀シテ國民法ニ遵フノ義ヲ亂ル者及

顯ハニ刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論ヲ爲ス者ハ一月以上一年以下ノ罰禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四 猥褻ノ文辭圖畫及誹謗ヲ寓シタル戲畫ヲ掲ケタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

此條例ハ專ラ本邦ノ新聞紙ニ記載シタル事項ニ付其取締ヲ設ケタルモノナレドモ若シ外國ノ新聞紙及書籍ヲ譯出シテ本邦ノ新聞紙ニ記載スル者アルトキニハ皆此條例ニ依リ之ヲ處斷スルモノナリ

參照

明治十六年第十二號布告新聞紙條例

第十五章

徵兵

徵兵ノ爲メ全國ヲ區別シテ七軍管徵兵區トシ其軍管ヲ分テ十三師管徵兵區トス又其師管ヲ細別シテ府縣徵兵區トス然レトモ徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス又北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クルマテ函館縣管下函館江差福山ノ三箇所ヲ限リ之ヲ行ヒ當分ノ内第二軍管ノ管轄ニ屬セシム而シテ府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身体檢查終リタル後兵役ニ適スヘキ人員ノ身材職業

ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番号ヲ定メテ抽籤セシム其抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノニシテ籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツルマテヲ以テ現役籤トシ其餘ハ凡テ補充籤トスルモノナリ

兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及國民兵役トシ全國ノ男子重罪ノ刑ニ處セラレタル者及癡疾不具ノ者ヲ除ク年齡滿十七歲ヨリ滿四十歲マテノ者ヲ以テ之ニ服セシム其種類年限ヲ分テハ即チ左ノ如シ

常備兵役

現役 年期三年 滿二十歲ノ者之ニ服ス

豫備役 年期四年 現役ヲ終リタル者之ニ服ス

兵役 後備兵役 年期五年 兵役ヲ終リタル者

國民兵役

滿十七歲ヨリ滿四十歲マテノ者ニシテ常備兵役及後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

右ニ記載シタル現役、豫備役、後備兵役、國民兵役ノ四種ニ關スル條項ヲ左ニ列記セントス

現役兵

第一 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及雜卒

職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤者ヲ以テ之ニ充
ツ

第二 海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方
及島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水
兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤者ヲ以
テ之ニ充ツ

第三 滿十七歲以上ノ現役志願ノ者

第四 滿十七歲以上滿廿七歲以下ニシテ官立府縣立
學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料
被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一ケ年間陸

軍現役ニ服セシム

第五 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及官立
公立學校(小學校ヲ除ク)ノ步兵操練科卒業證書ヲ所
持スル者ハ其期末々終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコ
トアリ

豫備兵

第一 戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充
實シ又補充隊ニ編制ス

第二 平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日
以内之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ毎年一度點呼ヲ

爲ス

第三 海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナ

シ

後備兵

第一 戦時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス

第二 平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

國民兵

第一 戦時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵

員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ

軍役ニ充ツ

兵役徵集猶豫ノ第一ハ即チ左ノ如シ然レトモ其年補充員不足スルトキ又ハ戦時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集スルモノトス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死歿又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖

ノ孫

第四項 戸主癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主

兵役徵集猶豫ノ第二ハ即チ左ノ如シ然レトモ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫スルモノトス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生

徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハ

ス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ然レトモ戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアリ

第一 官吏(判任以上)及ヒ戸長

第二 教導職(試補ヲ除ク)

第三 官立公立學校教員

第四 府縣會議員

第五 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術

開業ノ者

官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ修業一個年以上ノ

課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス又官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアリ

以上ハ徵集猶豫ノ者ナレトモ左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラサルモノナリ

第一 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二 癯疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト

能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メ

タル嗣子承祖ノ孫

第三 年齢六十歳未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七 年齢六十歳未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪

ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

第九 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツルモノニシテ其員數ハ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス而シテ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集スルモノナリ

豫備徵員ニ第一第二ノ二種アリ

第一豫備徵員ハ補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者ト官立大學校及之ニ準スル官立學校本科生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リ年齢滿二十七歳マテノ者トナリ以テ之ニ充ツルモノトス

第二豫備徵員ハ右ニ記載シタル兵役徵集猶豫ノ第一ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者又ハ兵役徵集猶豫ノ第二ニ當ル者及官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フヘカラサル技術ノ職ヲ奉スル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及第一豫備徵員ヲ終リ年齢滿三十二歳マテノ

者等ヲ以テ之ニ充ツルモノトス然レトモ兵役徵集猶豫
 ノ第一ニ當ル者第二豫備徵員トナリタル後六個年間ニ
 該條項ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集スル
 モノナリ
 兵役ヲ免レンカ爲メ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐
 僞ソ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當
 ノ故ナク検査所ニ參會セサル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直
 ニ現役ニ徵集ス又兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿
 シ若クハ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ア
 ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十

圓以下ノ罰金ヲ附加スルモノナリ

參照

明治十六年第四十六號布告徵兵令

第十六章

銀行

本邦ニ於テ條例ヲ設ケテ創立シタル銀行ハ國立銀行及
 日本銀行ノ二種トス

第一國立銀行

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之
 ナ大藏省ニ預ケテ銀行紙幣ヲ受取り其引換ノ準備金ヲ

設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ其創立ノ手續ハ日本人五人以上結合シ銀行創立證書及銀行定款ヲ大藏省ニ差出シ大藏卿ヨリ開業免狀ヲ受クルモノトス
 國立銀行ノ資本金額ハ十万圓ヨリ下ル可カラサルモノトス尤人口十万人以上ノ地ニ於テハ二十萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルコトヲ許サス然レトモ時宜ニ依リ差支ナキトキハ五萬圓以上十萬圓未滿ノ資本金ニテモ之ヲ創立スルヲ許スコトアリ其資本金額ノ十分ノ八ハ(十萬圓ナレハ八萬圓)政府ヨリ發行スル所ノ四朱以上利付ノ公債證書ヲ其實價(市中賣買ノ時相場)ニ依リ大藏省

ニ預ケ置キ其代リトシテ銀行紙幣ヲ受取ルモノトス而シテ其公債證書ハ銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ大藏省ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置キ其利子ハ年々銀行之ヲ受取ルモノトス又資本金額十分ノ二(銀行紙幣下付高四分ノ一)ハ通貨ヲ以テ日本銀行ニ定期預ケトシテ之ヲ預ケ置キ銀行紙幣ノ引換ニ充ツルモノトス
 國立銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ルモノナリ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ラス總テ其所持株高相當ノ權利ヲ

有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高三應シテ之ヲ負擔ス然レトモ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サ、ルモノトス
 國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様通用スベキモノナリ然レトモ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ユルヲ許サ、ルモノトス
 國立銀行ノ營業本務ハ金銀ヲ貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形約束手形

代金取立手形其他ノ證書ヲ割引シ又ハ公債證書外國貨幣並ニ金銀銅ノ地金ヲ賣買シ及保護預リ又ハ兩替等トス然レトモ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲替方ヲ勤ムルコトヲ得又大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非サレハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ無論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組ミ又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サルモノトス故ニ銀行ハ此本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスコトヲ得ス又職工作業ノ功ヲ興シ及此

等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス然レトモ左ニ
掲載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買
シ又ハ之ヲ引取り又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ之ヲ宥恕
セリ

第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ
之ヲ買取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フコトヲ得

第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取りタル地所物件
ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フコトヲ得

第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ
代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取り之

ヲ所持シ之ヲ賣拂フコトヲ得

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニ
シテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノ又ハ
之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタ
ルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物
ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取り之ヲ引取り之ヲ
所持シ之ヲ賣拂フコトヲ得

右ニ列記スル所ノ條項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所
家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取り又ハ買取りタル地所
物件ハ遅クトモ十ヶ月以内ニ之ヲ賣拂フヘキモノトス

國立銀行ヨリ貸付クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本
 金總額ノ十分一ヲ限リトナス又其貸付金ノ利息ハ政府
 ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘキモノナ
 リ若シ其制限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行
 ナ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシム又銀行ハ其
 銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスコトヲ得ス
 又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスコトヲ得
 ス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルコトヲ得サル
 モノナリ然レトモ貸付金ノ滯リニテ銀行ノ損失トナル
 コトアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取リ又ハ買取ルコ

トヲ得尤モ其株ハ遅クトモ六ヶ月以内ニ之ヲ賣拂フヘ
 キモノトス

國立銀行ノ營業實際ヲ詳細監督スル爲メ大藏省ハ定例
 臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ検査セシ
 メ又銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請
 願アルニ於テハ大藏省ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方
 官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業体ヲ検査セシムルコトア
 リ
 國立銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ左ノ事項ヲ
 禁ス

- 第一 銀行所有ノ金銀及諸證書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スルヲ
- 第二 頭取取締役ノ承認ヲ得シテ銀行紙幣及預證書ヲ發行シ又ハ諸貸付ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ證書及切手ノ引受ヲナシ約束手形爲替手形諸證書質物及公裁ニテ引取りタルモノヲ賣渡スヲ
- 第三 銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スルヲ
- 第四 社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借り得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受

ルヲ

- 第五 其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其證人又ハ受人トナルヲ
 - 第六 其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スルヲ
 - 第七 諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事スルヲ
- 國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコトアルトモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メナ

キモノトス

銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルトキニハ大藏省ノ承認ヲ得テ世上ニ其旨趣ヲ公告スヘキモノトス

國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルトキハ大藏卿ハ鎖店ヲ命スルコトアリ

- 第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戾シタル時
 - 第二 負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル證據アル時
 - 第三 資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スル時
- 國立銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受

クシ日ヨリ二十ヶ年間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス而シテ其發行紙幣ハ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノニ付日本銀行ニ於テ預リ置キタル準備金及毎半季銀行ヨリ日本銀行ニ預クル所ノ紙幣消却元資ノ金額銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘ヲ以テ之ヲ消却シ大藏省ニ於テ之ヲ燒捨ルモノナリ

右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ルモノナレトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ得サルモノナリ

第二日本銀行

日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止リ其資本金ハ一千万圓トシ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス然レトモ株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加及營業ノ延期ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

株券ハ總テ記名トシ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス又其株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人監事三人乃至

五人ヲ以テ之ヲ綜理ス總裁ハ勅任副總裁ハ奏任ニシテ各任期五ケ年トシ其任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得サルモノトス

理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿之ヲ命ス監事ハ株主總會ニ於テ撰舉スルニ止ルモノナリ而シテ二職トモ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ得サルモノトス

日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メ

ニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當坐勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事

右營業ノ外ニ日本銀行ハ兌換銀行券諸手形及切手ヲ發

行シ及公債證書ヲ買入レ又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ルモノトス

以上列記スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得サルモノトス

第一 不動産及銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タルヲ

日本銀行ハ其條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘキモノトス而シテ政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戾スルコトハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スルノ權ヲ有ス

参照

明治九年第百六號布告國立銀行條例同十一年第五號第二十九號第三十一號布告同十六年第十四號布告同十五年第三十二號布告日本銀行條例

第十七章

衛生

衛生ノ事タル大ニシテハ一國ノ本元ニ關シ小ニシテハ一個人ノ生命ニ係リ一日モ忽セニスヘカラサルモノナリ故ニ内務省中ニ於テ衛生局ヲ置キ其事業ヲ管理セシム然ルニ其方法ニ至テハ或ハ重大ナル法律アリ或ハ人民日常ノ事ニ關シ極メテ細末ノ規則アリ一々之ヲ記載スルハ頗ル冗長ニ互ルカ故ニ今其重要ナルモノヲ記セント欲ス

衛生ノ目的ハ人民ヲシテ無病壯健ナラシメ又若シ疾病

ニ權ヲハ藥品ヲ以テ之ヲ療治セシメントスルニアリ而シテ其藥品ノ如キハ其性効ヲ知ラスシテ慢リニ之ヲ使用セハ却テ大害ヲ生スルニ至ルモノ比々皆ナ是ナリ故ニ政府ハ明治十三年第一號布告藥品取扱規則ヲ制定シ凡テ藥品トシテ取扱フモノヲ區別シテ左ノ三類トス

第一類 (注意藥)ハ藥品中最モ注意シテ精撰スヘキモノ即チ硝酸銀、コロ、フオルム、炭酸アンモニヤ等ノ類

第二類 (毒藥)ハ其性効峻烈ニシテ僅少ノ分量ト雖モ直ニ生命ヲ傷害スルニ足ルヘキモノ即チ亞砒酸、青

酸等ノ類

第三類 (劇藥)其性効第二類ノ如ク峻烈ナラサルモ用量ニ因テ容易ニ危害ヲ來スヘキモノ即チ石炭酸、硫酸等ノ類

右ニ列記スル第一類ノ藥品ハ其性効ノ緩劇ニ拘ハラス若シ精良ナラサルトキハ醫師ノ目的ヲ誤リ以テ人命ヲ危フスルカ故ニ其粗製品ハ之ヲ藥用トシテ販賣スルコトヲ許サス然レトモ其粗製品ニシテ仍ホ學術上工職上等ノ用ニ供スルニ足ルモノハ粗製ノ字ヲ其器ニ明記シ之ヲ販賣スルコトヲ許ス

第二類第三類ノ藥品ハ醫師ノ處分書ニ據テ調合スルノ
 外醫師藥舖化學者製藥者工職者等ヨリ品名量數需用ノ
 目的年月日及住所姓名ヲ詳記シタル證書ヲ以テスルニ
 アラサレハ決シテ之ヲ販賣或ハ授與スヘカラサルモノ
 ナリ假令ヒ處分書及證書アリト雖モ幼稚ノモノ其他不
 安心ト認ムルモノニハ一切交付スヘカラサルモノトス
 而シテ此二種ノ藥品ヲ販賣スルトキハ其器若クハ包紙
 ニ必ラス普通ノ名稱ヲ記シ第二類ハ毒ノ字第三類ハ劇
 ノ字ヲ明書スヘキモノナリ
 販賣ヲ禁シタル藥品又ハ贗品及ヒ敗品ヲ販賣シタル者

等ハ其所犯ノ輕重ニ因リ懲役罰金ノ處罰ヲ受クルモノ
 トス
 同シ藥品トハ雖モ阿片ニ至テハ東洋諸國ニ頗ル毒害ヲ
 流シタルカ故ニ殊更ラニ其取締方法ヲ嚴重ニセラレタ
 リ今其法律ニ因レハ阿片ノ賣買及製造ハ藥用品ニ限り
 之ヲ許サレタルカ如シ
 藥用阿片ハ其內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省
 ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ然ル後チ各司藥場ヨ
 リ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケ之ヲ賣捌カシム而シテ
 其特許藥舖ヲ定ムル方法ハ地方廳ニ於テ土地ノ廣狹位

置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ撰
 ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スル
 モノトス
 凡テ阿片ハ内外國人トモ醫師ノ處分箋ヲ持參シタル者
 ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ於テ之ヲ賣渡スコトヲ
 得ス然ルニ醫師病院及一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要
 スルトキハ其量目並ニ其住所姓名及年月日ヲ記シ調印
 シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スルコトヲ
 得ルモノナリ而シテ其賣渡ス量目ハ一度ニ四十匁ヲ超
 ヲヘカラサルモノトス

藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及培養採
 取製造ノ方法ヲ記シ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘキモノ
 トス而シテ其製造シタル阿片ハ量目ヲ記シ願書ヲ以テ
 内務省ノ買上ケヲ乞ヒ其外ニ決シテ内外國人ニ販賣ス
 ルコトヲ許サス

石炭酸其他劇藥ハ藥品取扱規則ヲ以テ取扱ヘキモノナ
 レトモ傳染病流行ノ際ハ内務省ノ布達ニ從ヒ消毒藥ニ
 調製スル分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣スルコトヲ許サレタ
 リ

賣藥ト稱スルモノハ丸藥、膏藥、煉藥、水藥、浴劑、散藥、煎藥等

ナ云フモノニシテ之ヲ調製シテ販賣セント欲スル者ハ
 藥味分量用法服量功能ヲ詳記シ管轄廳ニ願出免許鑑札
 ナ受クヘキモノナリ而シテ管轄廳ニ於テハ其願書ヲ檢
 査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ラス取扱上失誤ヲ
 生シ易キモノ及毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許
 サ、ルモノトス

免許鑑札ヲ得タルヨリ五年間ヲ以テ賣藥免許ノ期限ト
 シ若シ其期限中ニ藥味分量用法服量能書ヲ改正セント
 スルトキハ更ニ願出テ新鑑札ヲ受クヘキモノナリ又其
 免許期內ト雖モ其製藥有害品ナルヲ更ニ發見スルトキ

或ハ其製藥ヲ粗惡ニスル等ノニトアルトキニ直ニ鑑札
 ナ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアリ
 鼠取或ハ蠅取藥ト唱ヘ礮石類ヲ調合シ賣買スルヲモ禁
 止セラレタリ
 無鑑札ニテ製藥シ之ヲ販賣スル者又ハ免許ヲ受ケスシ
 テ私ニ藥味分量等ヲ改更スル者及私ニ有毒藥ヲ配伍ス
 ル者等ハ賣藥規則ニ依リ罰金ニ處シ或ハ尙ホ之ニ附加
 スルニ製藥及賣得金ヲ沒收スルノ方法ヲ設ケラレタリ
 以上ハ藥品ニ關スル法律ナリ而シテ衛生上尤モ注意豫
 防スヘキ病名ハ明治十三年第三十四號布告傳染病豫防

規則ヲ以テ指定セラレタリ今其規則ニ依ルニ傳染病ト
 ハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布埤利亞、發疹窒扶私、及痘瘡ノ
 六病ヲ云フ而シテ醫師ノ此六種ノ傳染病ヲ診斷スル者
 ハ遅クトモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員
 ニ通知スルヲ要ス然レトモ土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ
 直ニ警察署ニ届出テ警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ
 妨ケナシトス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及最寄警察署
 ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳東京府下ハ府廳及警
 視廳ニ届出ツ而シテ地方長官ハ其性狀ヲ記シ速ニ内務
 省ニ申報シ且ツ其管内及隣接若クハ船舶交通ノ府縣最

寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告シ尙ホ一週間毎ニ新舊
 患者及治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘキモノトス
 虎列刺、赤痢、發疹窒扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於
 テ豫防ノ爲メ、避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ内務卿
 ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得然レトモ人民協議ヲ以
 テ避病院ヲ設クルニハ地方長官ノ許可ヲ乞フヘキモノ
 ナリ而シテ其病性或ハ地方ノ情況ニ因リ醫師並ニ衛生
 委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播
 ナ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムルコトヲ得
 虎列刺病ニ關スル取締方法ヲ左ニ列記セントス

- 第一 排泄物及汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシム
- 第二 死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシメス且他ニ改葬スルヲ許サス但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ
- 第三 臥具衣服器具及病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ授受賣買スルヲ許サス
- 第四 井泉河流水道及廁圀芥溜下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ

設ク

- 第五 病勢猛劇ナルトキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシム
- 第六 第五ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ムルコトヲ得又虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯シ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タ

シムルノ處分ヲ爲スコトヲ得但要用ノ者ハ掛官吏
檢察ノ上交通ヲ許ス

右ニ列記スル第一ヨリ第五迄ノ取締方法ハ虎列刺病ニ
用ユルモノナレトモ其内ニ於テ第一第三第四ハ腸窒扶
私及赤痢病ニ適用ス又發疹窒扶私病ニハ第二第三第四
第五第六ヲ適用シ尙ホ其病者若クハ其死屍ヲ乗セタル
車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スル
コトヲ得サルモノトス

實布埜里亞病ニハ第三ヲ適用シ患者ノ痰唾及之ニ汚穢
スル物ハ燒棄若クハ埋却セシム又痘瘡病ニハ第二第三

第四ヲ適用シ尙ホ其病者若クハ其死屍ヲ乗セタル車輿
等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スルコト
ヲ得サルモノトス

醫師衛生委員官吏及人民ニシテ傳染病豫防規則ニ違背
シタルトキハ各其條項ニ由テ處罰スルモノトス

虎列刺ノ傳染ハ專ラ其流行地方ヨリ來ル船舶ニ始ルモ
ノナルカ故ニ政府ハ明治十五年第三十一號布告ヲ以テ
此等ノ船舶検査規則ヲ制定セラレタリ今其要領ヲ擧ケ
ントス

凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ

受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス故ニ檢疫官ニ於テ其船中該病患者又ハ死者ナキコトヲ認ルトキニハ直ニ之ヲ許スモノトス然レトモ若シ之レアルトキハ檢疫官ハ其船舩ヲ陸地及他船ニ傳染ノ虞ナシト認ル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム而シテ該病者ハ之ヲ避病院若クハ其住居又ハ其他檢疫官ノ適當ト認ル場所ニ送致シ其死者ハ地方官所定ノ場所ニ火葬若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬ス

是等ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フモノトス

此規則ニ違背シタル者ハ刑法第五章第三節傳染病豫防規則ニ關スル罪ニ依リ之ヲ處斷ス

明治六年第百六十三號布告ヲ以テ三府市街ノ區内其他人家稠密ノ地ニ於テ牛豚等ヲ豢養スルコト堅ク禁止セラレタリ是レ全ク牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ温暑ノ時ニ

方テハ其臭氣人身ノ健康ヲ害スルノミナラス近來ハ獸類ノ傳染病流行シ往々人生ノ傷害ヲ醸スニ因レリ尤モ東京府下朱引内ニ於テ乳汁搾取ノタメ參養スルコトハ許サレタレトモ若シ不潔臭穢ノ儀之レアルトキハ詮議ノ上之ヲ取拂ハシムルコトアリ

參照

明治十三年第廿三號布告、同十年第七號布告賣藥規則、同五年第百四十二號布告、同十三年第五十四號布告、同十五年第四十八號布告、同十四年第五十八號布告

第十八章

遺失物

遺失物ヲ得タル者之ヲ取扱ヒ及之ヲ處分スルノ法律ハ明治九年第五十六號布告ヲ以テ之ヲ制定セラレタリ其法律ヲ名ケテ遺失物取扱規則ト云フ今其法律ニ依ルニ凡テ遺失物ト稱スルモノハ自ラ其遺失スルヲ覺ラス及其所在ノ明カナラサルモノヲ云フモノナルカ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ之ヲ論スルヲ得サルモノトス

遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速ニ官ニ届出ツヘキモノトス而シテ其遺失物ヲ得タルモノハ五日内ニ其主ニ還シ其主分明ナラサルハ之ヲ官ニ送ルヘキモノナリ然ル時ニハ官之ヲ榜示シ一ケ年内其主ナキハ之ヲ得者ニ給スルモノトス又遺失物ヲ得レハ必ラス之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルヲ得且ツ得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス百分ノ二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘキモノトス而シテ又盜賊ニ係ル物品ヲ得ルモノハ直ニ官ニ送り官之ヲ其主ニ還シ止タ

其費用ノミヲ償ハシムルモノトス
遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルハ迅速ニ之ヲ官ニ送り官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ其旨ヲ榜示シ一ケ年内其主ナキハ之ヲ得者ニ給スルモノトス
家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖モ其主ヨリ其家畜ノ模様員數並ニ日時場所等ヲ詳細ニ記載シ速ニ官ニ届出ツヘキモノトス而シテ之ヲ得タル者ニハ其費用ヲ償ヒ且ツ報勞ノタメ其價百分ノ五ヨリ少カラス百分ノ二十ヨリ多カラサル金圓ヲ給

スルモノトス又其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ル若シ
 八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償
 ヒ仍ホ代金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ其旨ヲ榜
 示シ一ケ年內其主ナキハ之ヲ得者ニ給スルモノトス
 遺失物及逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費
 用ト報勞金ヲ給スルヲ私有物ニ異ナルヲナシ
 凡テ一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及埋藏ヲ論セス並ニ官
 ニ沒ス又公私債証書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ
 論スルヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘキモ
 ノトス

官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品(盜賊ニ係ルモノヲ除ク)ヲ
 掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘキモノトス其主分明ナラ
 サルモノハ地主ノ所有ニ歸ス若シ借地人其借地ヨリ掘
 得タルハ之ヲ地主ト中分セシムルモノトス
 右ニ記載シタル遺失物及逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ
 掘得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主ノ其主タルヲ証
 明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ明治十四年第七十二
 號布告法律規則中罰例ニ係ルモノ處斷方第四條法ニ照
 シ律ニ照シ處斷ストアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰
 金ニ處ストノ明文ニ依リ之ヲ處分ス又刑法第二章第三

節遺失物埋藏物ニ關スル罪ノ部ニモ左ノ如キ明文アリ
刑法

第三百八十五條 遺失及漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ
所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日
以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品
ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

參照

明治十四年第二號布告

明治十八年二月十七日版權免許
明治十八年二月二十五日 出版

定價八拾五錢

譯述並出版人

金子堅

福岡縣士族

東京麹町區中區番町
三十七番地



發兌並賣捌

弘道書院

東京々橋區弓町八番地

出版書籍目錄

法學士土方寧君
文學士有賀長雄君 同譯

弘道書院發兌

○羅馬法綱要卷一

洋裝美本 定價金九拾五錢
郵便稅二拾錢

右ハ歐米法律ノ本源タル羅馬法ヲ米國ニ有名ナル大學博士ハドレイー氏が纂述セラレタルヲ翻譯シタル者ニシテ現ニ我邦ニ寥寥タル羅馬法書中ノ最良タル者ナレバ苟クモ法律ヲ學ビ歐米法律ノ基源ヲ知ラントスル者ハ不可不必讀ノ良書ナリ

理學士北尾次郎君纂著
弘道書院發兌

○普國憲法起原史

定價金八十錢

右ハ理學士北尾次郎君ガ十餘年間彼國ニ留學レテ螢雪ノ辛苦ヲ嘗メラレタルノ餘暇ニ於テ彼ノ歐洲ニ有名ニシテ且ツ日本最負ノ聞エアル大學士スマイン先生ガ日本ノ爲メニトテ次郎君ニ囑托シタル旨趣ニヨリテ普國憲法起原ノヲ哲學上ト理學上トサテ以テ諸書ニヨリテ編纂セラレタルモノニシテ我邦人必讀ノ新書ナリ

文學士有賀長雄君著
弘道書院發兌

○國情七轉考

近刻

右ハ哲學專門ノ文學士有賀長雄君ガ哲學上ノ推究ヲ以テ日本開闢以來今日ニ至ル迄國情

ノ七タビ轉迂シ來リシ次第ヲ詳細綿密ニ論述セラレタル書ニシテ最モ一世ニ裨益スルノ
良著述ナリ

曾田愛三郎 翻譯

近刻

○魯國虛無黨秘聞錄

此書ハ標題ノ如ク虛無黨動作如何ヲ詳ニ誌タルモノニシテ至極珍奇ノ書ナリ

米國ハルバルト大學校哲學教授フランシフ、ボウエン原著

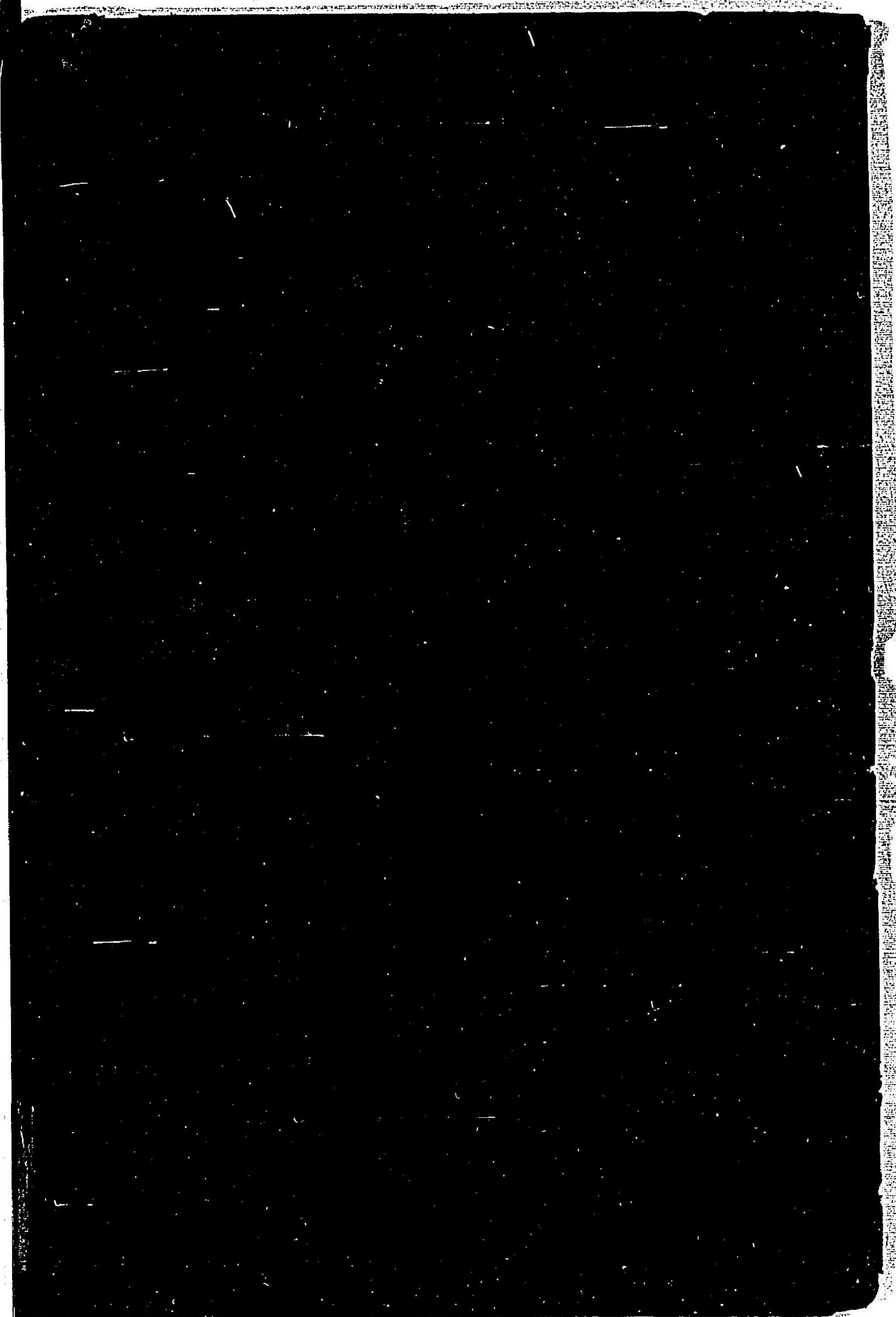
日本東京大學卒業哲學專門文學士有賀長雄譯述

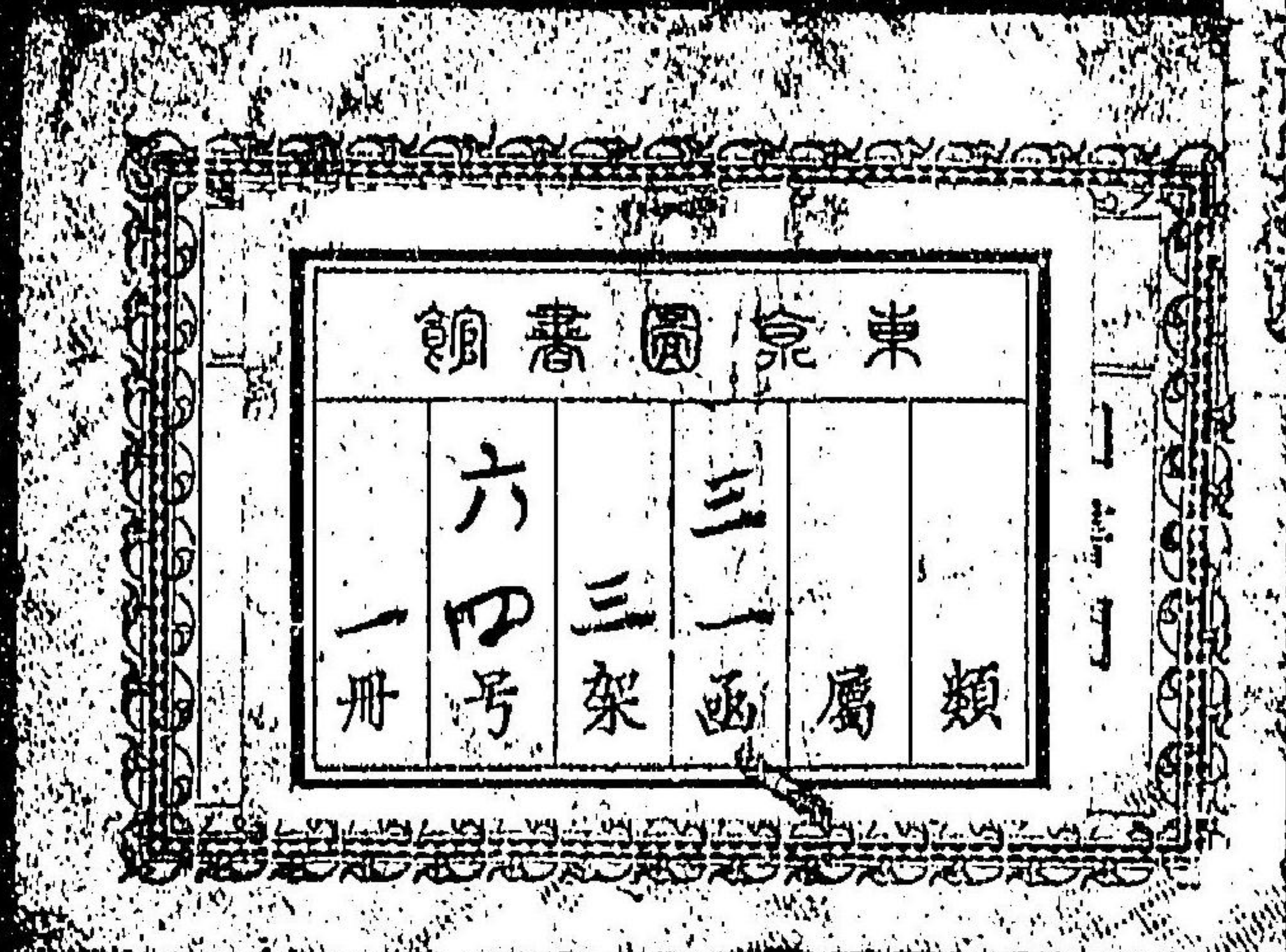
○近世哲學

豫約出版

此書ハ現時米國哲學教授フランシフ、ボウエン氏ノ原著ニシテ現ニ英語ニテ綴リタル哲
學史中ニテハ最良ノモノトス、此外ニモクウサン、リウイス、ウエグラル等ノ諸氏ノ哲
學史アレド皆一門一派ハ見解ヲ採テ他ノ諸派ヲ評論スルモノニ過ギズ獨リ此書ニ至テハ
諸派ヲ公平ニ叙述シテ去執ヲ讀者ノ判斷ニ任カセリ、因テ最モ初學ニ適セリトス、現ニ
我東京大學教授タルフエノロサ氏ハ右ボウエン氏ノ高弟ナリ故ニ今又其高弟タル文學士
有賀長雄先生ニ托シテ該書ヲ譯シ且ツ註解ヲ加ヘテ弘ク天下ノ諸士ニ益セントス依テ今
般當書院ニ於テ其卷帙ノ浩澁ニシテ從テ其價ノ不廉ナルヲ憂ヒ此書ニ限リ豫約法ヲ設ケ
テ出版セントス天下ノ諸士若シ其一本ヲ得テ熟讀セラレナハ其諸士ヲ裨益スルノ莫大ナ
ルハ勿論ナリ

37
64





031135-000-3

31-64

本邦法令摘要

金子 堅太郎 / 著

M18

BBC-1120



